

第13章 マイナークロップの分類と統計分析によせて

秋山 満

1. マイナークロップの概念をめぐって

残留農薬のポジティブ・リスト化に伴い、にわかにマイナー・クロップが問題化してきている。農水省の定義では、収穫量3万トン以上の作物をマイナークロップと位置づけたが、これは農薬市場からみた検査費用の採算問題をベースに区分けしたもので、便宜的のそしりを免れない。マイナーの質的定義を欠いたまま量的定義で代替しているわけだが、その量的定義も何故3万トンなのか、何故収穫量基準なのかと、その基準の恣意性を免れないからである。普通畑作、果樹、野菜等において、その規定が一律でよいかも問題であるし、同一品種（例えばネギ）においても、マイナークロップ的に特産品として流通しているものも多いからである。現場的な経営的な意味におけるマイナークロップの位置づけと政策サイドの位置づけが必ずしもかみ合っていないのである。

そもそもマイナーはメジャーとの対比概念である。逆に言えば、メジャークロップが定義づけられれば、それ以外はマイナークロップということになる。このこと自体は当たり前のようなのだが、政策的含意は重大である。日本農業において、あるいは日本農政において、何をメジャー・クロップ（主要作物・基幹的作物）として位置づけてきたのか、と問うていくことになるからである。基本法以降、「選択的拡大」のもと、需要減退作物ばかりでなく、「輸入と競合」する作物も「合理化」の対象としてきたのが、この国の農政である。選択的拡大品目である野菜においてすら、中国輸入野菜の増大に伴うセーフガード発動が問題となり、果樹においてはみかん園の廃園等が進んでいる。WTO交渉における上限関税の設定次第では、最後の砦たる稲作すら壊滅的打撃を受ける可能性が強いのである。また、日豪EPA交渉（その次には輸出国の本丸、日米EPA交渉が控えている）では、日本農政の優等生たる北海道農業への壊滅的打撃が試算されている。国際化農政の行き着く先が、稲作の解体と畑作の解体を招くとすれば、日本農業にとってメジャークロップとは何かと問うことは、決して意味のないことではない。また、こうした国際化農政への対応として、現在品目横断的経営安定対策が取り組まれているが、その作物限定が何故米・麦・大豆、加工用馬鈴薯、甜菜に作物限定されるのか、あるいは、こうした直接支払い対象とは別に野菜や畜産等における価格安定装置に違いが出るのか、その政策的含意を問うことになるからである。農政の視点から見れば、こうした作物分類は、メジャー作物に対する国家の関与の程度、「保護」装置の違いとして現れるのであり、端的には価格政策における位置づけの違いとして発現するからである。日本農政の歴史が、こうしたメジャークロップを政策装置からはずしてきた歴史だとすれば、マイナークロップの検討は、こうしたメジャー作物との関係、もっと言えばメジャー作物とマイナー作物の交代・盛衰の変遷

を動態的視点から検討する必要があるのであり、マイナー作物の検討を通じてメジャー作物の農政的位置づけの変遷を逆照射することが求められているのである。メジャーとマイナーの検討のためには、その量的規定の前に、その質的規定、取りわけ、農政における位置づけが問われるのである。

2. マイナークロップの位置づけの検討視点

マイナークロップの位置づけを、どの視点から見るかによって、その意味づけが異なってくる。

大きくは次の視点からそれぞれ、マイナークロップの意味づけを検討し、それを束ねる形で政策的な位置づけを明確化する必要がある。

第1は、消費構造における位置づけである。栄養素確保主体の食生活から食の成熟化を経て、簡便化試行とともに、健康志向・機能性志向へとその食生活が変異しつつある。そうした食生活の変遷に対応して、食料の位置づけもメジャー品目からマイナー品目へ、逆にマイナー品目からメジャー品目へと変化している。消費構造におけるメジャーとマイナーの変遷のダイナミズムの検討が必要である。

第2に、土地利用における位置づけである。土地利用においては、主要作物と副次作物に区分されるが、水田利用における二毛作体系から水稲単作化、米過剰以降は転作作物が増大している。また、畑作においては、イモ・雑穀類等の普通畑作の拡大とその後の飼料作・野菜作への転換を伴い、畑地の畜産利用と商品作物の単純化が進行している。その延長上に、畑限界地を中心とした耕作放棄・植林が進展し、立地変動が激しく進展している。また、こうした限界地を中心とした地域特産物等の残存等も考慮する必要がある。マイナーとメジャーの交代・変遷を、土地利用体系の側面から位置づける必要がある。

第3は、経営における位置づけである。経営における作物の位置づけは、雑多型複合化から専作化、規模拡大に対応して再度の複合化へと変遷してきた。水田経営においては、水田二毛作経営→稲単作経営→転作を含めた水田複合経営へと、基幹作物米と副次作物の関係が変遷してきた。また、畑作経営においても、小規模複合経営から産地化を目指して大規模単一経営へと展開し、地力問題を背景に再度の大規模複合経営が問題化してきている。経営におけるマイナーとメジャーの組み合わせ・定着度が問われている。

第4に、加工資本との関係における位置づけである。食品加工は漬け物や干物等の内陸型の地場産業資本から輸入食材に依拠した臨海型大規模加工資本へと再編されてきたが、そうした加工資本の盛衰に連動して、原料農産物のマイナーとメジャーの交代・変遷が引き起こされる。加工資本による原料生産産地の選別再編と地域特化は、そこから振り落とされた産地の新たな特産物づくりへと促迫し、原料農産物産地の立地変動を引き起こす。こうした原料農産物のマイナーとメジャーの交代・変遷、それに連動した立地変動が問題となる。

第5に、地域経済における位置づけである。地域格差が拡大する中、限界地を中心に地

域特産物を活用した地域活性化方策が問われている。そうした過程で、地域食文化の見直しや地場関連作業とも連携しつつ、地域特産物作りが様々な形で展開しつつある。そうした、地域経済や地域活性化におけるマイナー作物の位置づけが問われている。ここでは、単なるモノとしての特産物から加工・サービスを含めた新商品作りが展開しているのであり、そうしたマーケティングを含む戦略作りが特有の課題となる。

以上、5つの視点からメジャー作物とマイナー作物の位置づけを検討してきたが、どの視点から位置づけるかによって、その重み付けや量的基準も異なってくる。総合的なマイナー作物（裏を返せばメジャークロップ）の把握方法が問われている。また、政策的には、第1の消費視点、第2・3の農業生産視点における重み付けの考慮しつつ、地域対策的視点として第3・4・5の視点にも配慮して、その政策関与の重み付け（国際化農政以前は主に価格政策における位置づけ）に反映されることになる。その意味で、こうしたマイナーとメジャーの位置づけは、政策的には価格支持制度における介入程度の重み付け、及びその交代・変遷は価格支持政策の再編に表現されることになる。こうした農政におけるメジャーとマイナーの位置づけとその変遷が固有の問題領域を構成することになる。

3. 普通畑作(工芸作物)における作付変動とマイナー作物問題

①土地利用の変遷とマイナー作物問題

表1は、戦前（昭和元年）から現在までの作付変動を整理したものである。

戦前から基本法までの時期は、昭和恐慌を挟んで戦争経済と敗戦後の食糧危機をその時代の特徴とする。作付増減に見られるように、戦後の食糧危機は、畑作の拡大・躍進として現れ、水田二毛作と畑地の限界地への拡張、地場型加工資本と結びついた工芸作物の躍進として整理できる。マイナー作物問題としては、限界地にまで拡張された畑利用における多様な地域特産物の展開として現れよう。

基本法から85年までの時期は、選択的拡大と農産物「過剰」の時期である。輸入農産物の増大に対応して、国内土地利用の「近代化」・再編が進むのであり、工芸作物を中心とした普通畑作の衰退と野菜・果樹作への転換、取りわけ飼料作の急拡大に見られる畜産的土地利用への再編が進展する。マイナー作物問題としては、前期に伸張した多様な地域特産物が整理・立地再編され、相対的優等地における地域特産物の残存問題として発現することになる。

85年から現在の時期は、円高とガット交渉を挟んで、開放経済体制へと本格的に移行する国際化農政の時期である。土地利用は、転作作物の大豆・そばを除いて、全面的に縮小再編が進展することになり、「メジャー作物のマイナー化」とでも言うべき事態が進展する。畜産的土地利用すら縮小する中で、取りわけ穀類・工芸作物が解体的状況になる。他方で、こうした全面落層の極北で、地域格差の是正と活性化を目指して、様々な地域特産物作りが進展しているのが現段階である。時代時代において、マイナー作物の位置づけと論点を変遷しているとしていい。

②地域特産物におけるマイナークローブ問題

表2は、農林水産省の「特産農産物生産実績」を整理したものである。先の土地利用で表示されない普通畑作物であり、茶・てんさい、さとうきび、なたね、こんにゃく、い・たばこ（これが工芸作物としてのメジャー作物）を除く工芸作物が主体である。品目としては、大麻からケナフまで17品目が生産実績まで把握されており、これ以外に加工用途の特産農産物としては26品目が挙げられている。こうした特産農産物は、主に加工用途として6分類されており、①繊維料作物8品目、②油糧系作物4品目、③染料系作物2品目、④でんぷん系作物1品目、⑤香料系作物5品目、⑥薬用系作物5品目となっている。

土地利用との関係では、統計的に把握できる17品目では、水田型6作物、畑型5品目、畑型6品目となっており、意外と水田のウエイトが高い。転作政策の影響であろう。

表3は、こうした特産農産物17品目の立地分布を見たものである。食用型品目では、相対的に立地分布が全国に拡散し、食用系以外品目は特定地域に集中立地していることが確認できる。食用系が周年供給体制作りを不可避とするのに対し、非食用系は加工資本立地との関連もあり、特定産地に集中特化しているものと思われる。こうした立地問題のさらなる検討が必要であろう。

4. 野菜作における作付変動とマイナークローブ問題

①野菜生産の変遷と「制度的」野菜分類

表4は、野菜出荷安定法の成立を機に野菜生産出荷統計が整備された、65年以降の野菜生産動向を見たものである。野菜の生産把握は、作物統計の一環として昭和元年から特定品目の把握が始まり、作物統計調査（昭和22年統計法）から作付調査が開始され、野菜生産出荷安定法（1966年）がその体系的把握の起点となっている。戦前から把握しているものは、昭和元年に現在の指定野菜を中心とした14品目、昭和16年に8品目追加され、昭和40年から指定野菜（メジャー品目）14品目、特定野菜（準メジャー品目）14品目の主要野菜28品目が調査されている。その後、2000年の中国輸入野菜激増に伴うセーフガード発動、2001年の「野菜の構造改革対策」がスタートし、2006年「新野菜対策」へと新しい野菜対策が整備されてきた。その過程で、2002年に野菜生産出荷安定法が改正され、2007年、再度の野菜価格安定が改正去れ今日に至っている。この過程で、主に軟弱野菜を中心とした特定野菜品目が拡充され、現在25品目が準メジャー野菜の位置づけとなっている。

野菜は、工芸作物と異なり、根菜類から果菜類・果実的野菜まで多品目生産が必要であるとともに、食生活を支える生鮮供給体制作りが、不可避の課題である。そのため、工芸作物等とは異なり、野菜の安定供給と消費生活の安定を目的（東京都物価対策の格上げ）として野菜の価格安定制度が整備されてきた。そこでは、「消費量が相対的に多く消費生活上重要な野菜」として指定野菜制度（メジャー化）を行い、大都市を中心とする指定消

費地と指定野菜を団地的に生産する野菜指定産地を結びつけ、その価格変動に対する保険システムを確立してきた。2002年の価格安定法の改正では、市場流通を基礎とした保険システムから、指定消費地制度を廃止し、買付集荷を含む市場外流通を取り込み、もっぱら指定産地の価格下落への保険システムとなる方向で改正が進展している。

この価格安定制度を補完するものとして、特産野菜（準メジャー品目）を中心に、特定野菜等供給産地育成価格差補給制度が都府県野菜価格安定法人を中心に支える体制となっている。こうした特定野菜は、「指定野菜に準じた野菜」である一方、近年のアジアからの輸入が激増してきている分野でもある。そのため、この間の野菜対策の柱は、こうした特定野菜の拡充（14品目から現在33品目へ）として対応してきたのであり、必ずしも生産量のみで準メジャー化を判断してきたとは言えない状況である。

こうした、指定野菜、特定野菜の周辺には、「地域特産野菜」として53品目が把握されている。表5は、こうした地域特産野菜（一部特定野菜への格上げを含む）生産状況を見たものである。この間の野菜対策で、12品目が特定野菜へ格上げされるとともに、特例的に4品目が先の補給金制度対象として位置づけられて今日に至っている。こうした地域特産野菜は、山菜等の伝統的野菜の産地化、都市近郊と一部施設野菜に導入されている軟弱系野菜、及び、世界各地から試験的に導入が進められ、一部定着化しつつあるいわゆる「新野菜」等で構成されている。品目特性が指定野菜・特定野菜より強い品目群と言える。

資料は省略したが、地域特産野菜の統計では、こうした地域特産野菜の市町村までの立地動向が確認できる。その特徴は①少量・広域・複数産地システムとも言うべき立地分布である。こうした地域特産野菜の多くが、種苗業者や卸業者、あるいは、量販店や外食業界のエージェントたる仲卸により育成されており、生鮮型の周年供給体制作りを反映しているものと思われる。こうした野菜におけるマイナー作物たる地域特産野菜の生産構造と流通構造、及び、従来の地域特産物のイメージとは異なる立地問題を検討する必要がある。

②差別化・付加価値化タイプの「特産野菜」

こうした統計的に把握できる地域特産野菜とは別に、近年増大してきているのは「新野菜」、「伝統野菜」、「地域ブランド野菜」などの商品群である。

「新野菜」は、①外国を産地とする新野菜（ルッコラなど）、②従来と異なる栽培方法・品種の育成（ちぢみほうれんそう等）、③品種改良によるミニサイズ化（ミニ大根・にんじん等）等の新規性・栄養素・機能性などを備えた新規需要拡大型野菜の総称として用いられている。こうした「新野菜」は、先の種苗業者等の外部からの働きかけで新規導入が図られているベンチャー型野菜群である。

「伝統野菜」・「地域ブランド」野菜は、地域ブランドと伝統野菜を組み合わせたものが多く、「京都伝統野菜」「あいち伝統野菜」「加賀野菜（金沢市）」などの地域認証制度を伴っているのが共通の特徴である。その延長上に、地域ブランドの商標登録を行い、

差別化と付加価値化をねらっている商品群である。こうした産地育成においては、JAや県・市町村等の公的支援サポートが特徴であり、産地サイドからするブランド化といえる。

近年のマイナークロップには、こうした産地内部・外部から移植・育成・再評価された、新たな商品カテゴリー作りとしての「ブランド野菜産地」化がある。こうした、ブランド野菜の分類と産地育成のあり方、その戦略的手法なども、野菜のマイナークロップ問題として重要な構成成分を占めることになるだろう。

5. むすびに変えて

マイナークロップをどう位置づけるかは、メジャークロップをどう把握するかと裏腹な問題である。取りわけ、農政の視点からは、「メジャークロップのマイナー化」が進展する中で、その支援・保護装置の張り替えが問題となろう。同時に、地域対策の一環として「マイナークロップのメジャー化」が求められており、そうした動きへの支援策と保護装置の創設が問題となる。マイナー作物とメジャー作物を固定的に見るのではなく、その交代・盛衰のダイナミズムを把握する必要がある。

マイナー作物の定義・分類も問題である。マイナー作物をめぐる議論は、その対象を特定化しないまま、活性化や差別化の機能ばかりが分析されやすい。メジャー作物との関連でマイナー作物の位置づけと分類を行い、その類型に応じた支援方策や戦略の組み方を検討する必要があるだろう。

野菜を例にそうした分類を私案的に示せば、横軸には生産と消費における重み付けを反映した分類軸が必要であろう。野菜で言えばメジャーから順に、指定野菜→特定野菜→地域特産野菜→その他となる。もう一方の評価軸として、縦軸に差別化・付加価値化の程度を取る。そこでは産地ブランドや品種ブランド、地域ブランド、新規性などのが考えられる。そうした分類軸で取りあえず現在のマイナークロップを位置づけてみて、相互の関連と育成の手法、活性化の方策等を考える必要があるだろう。

その際は、必ずしも産地サイドばかりでなく、関連産業や消費サイドとの連携・ネットワーク化も視野に入れる必要がある。

表1 普通作物・飼料作物・工業農作物の推移 (h a ・ トン)

作物統計作付		1926		1960		1985		2005		作付増減率		
		昭和元年		昭和35年		昭和60年		平成17年		60/26	85/60	05/85
		作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量	作付面積	収穫量			
穀類	米	3132000	8339000	3308000	12858000	2342000	11662000	1706000	9074000	5.6	▲ 29.2	▲ 27.2
	水稻	2996000	8150000	3124000	12539000	2318000	11613000	1702000	9062000	4.3	▲ 25.8	▲ 26.6
	陸稲	136100	188500	184000	319900	23600	48500	4470	11900	35.2	▲ 87.2	▲ 81.1
	4 麦計	1448000	2771000	1440000	3831000	346900	1252000	268300	1058000	▲ 0.6	▲ 75.9	▲ 22.7
	小麦	463700	807200	602300	1531000	234000	874200	213500	874700	29.9	▲ 61.1	▲ 8.8
	大麦	443800	931900							-	-	-
	二条大麦			82700	230800	79600	263800	34800	124300	-	▲ 3.7	▲ 56.3
	六条大麦			319300	974800	22900	75700	15500	47000	-	▲ 92.8	▲ 32.3
	裸麦	540000	1032000	435900	1095000	10400	38100	4540	12100	▲ 19.3	▲ 97.6	▲ 56.3
エン麦	108900	156200	79100	160800	3130	5570	300		▲ 27.4	▲ 96.0	▲ 90.4	
豆・そば	大豆	387700	386800	306900	417600	133500	228300	134000	225000	▲ 20.8	▲ 56.5	0.4
	小豆	121400	97300	138700	169700	61200	97000	38300	78900	14.3	▲ 55.9	▲ 37.4
	インゲン	63500	58900	89300	142200	23600	43700	11200	25700	40.6	▲ 73.6	▲ 52.5
	ツル豆	6670	12700	54800	126200	26800	50500	8990	21400	721.6	▲ 51.1	▲ 66.5
	そば	107500	91900	47300	52200	18700	17200	44700	31200	▲ 56.0	▲ 60.5	139.0
	かんしょ	274400	3322000	329800	6277000	66000	1527000	40800	1053000	20.2	▲ 80.0	▲ 38.2
	飼料作物			153200	2982000	814800	3160000	782400	29682000	-	431.9	▲ 4.0
青刈りトウモロコシ			52600	1862000	121800	6306000	85300	4640000	-	131.6	▲ 30.0	
ソルゴー					35500	2385000	20100	1275000	-	-	▲ 43.4	
青刈りエン麦			15100	290400	15100	495800	7400	221000	-	0.0	▲ 51.0	
家畜用ビート			3250	82000	962	47700			-	▲ 70.4	▲ 100.0	
飼料カブ			6770	155400	8960	447400	389		-	32.3	▲ 95.7	
レンゲ			108400	1746000	4540		78		-	▲ 95.8	▲ 98.3	
青刈りライ麦			6710	133800	3410		1010		-	▲ 49.2	▲ 70.4	
青刈りその他			3530	63200	1960		631		-	▲ 44.5	▲ 67.8	
工業作物	茶	44100	35225	48500	77566	60600	95500	48700	100000	10.0	24.9	▲ 19.6
	なたね	72400	69700	191400	263600	1570	2730	301	652	164.4	▲ 99.2	▲ 80.8
	てんさい	7400	145200	47700	1074000	72500	3921000	67500	4201000	544.6	52.0	▲ 6.9
	サトウキビ	26600	878000	6810	372800	35700	2638000	21300	1214000	▲ 74.4	424.2	▲ 40.3
	コンニャク	7150	55000	14400	92300	11800	98300	4160	67000	101.4	▲ 18.1	▲ 64.7
	い	4580	42800	7540	79000	7420	80700	1700	21800	64.6	▲ 1.6	▲ 77.1
	葉たばこ	36522	63454	58819	121032	47800	116200	19100	46800	61.1	▲ 18.7	▲ 60.0
	穀類	4580000	11110000	4748000	16689000	2688900	12914000	1974300	10132000	3.7	▲ 43.4	▲ 26.6
類別集計	豆・そば	961170	3969600	966800	7184900	329800	1963700	277990	1435200	0.6	▲ 65.9	▲ 15.7
	飼料作物	0	0	349560	7314800	1007032	41281900	897308	35818000	-	188.1	▲ 10.9
	工業作物	198752	1289379	375169	2080298	237390	6952430	162761	5651252	88.8	▲ 36.7	▲ 31.4
	合計	5739922	16368979	6439529	33268998	4263122	63112030	3312359	53036452	12.2	▲ 33.8	▲ 22.3

作物統計各年版より作成

表2 特産農作物の生産概要(変化 01年～水田・畑利用別型)

(1) 大麻(あさ)							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	10.3	0.0	10.3	0.0	122.1	0.0	12.6
2004	8.6			7.7			2.8
(2) ラミー							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	0.9	0.0	0.9	0.0	15.0	0.0	0.1
2004	0.9		0.9		21.4		0.2
(3) ほろもろこし							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2004	0.9	0.0	0.9	0.0	15.0	0.0	0.1
(3) こりりやなぎ							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	1.1	0.9	1.1	0.9	176.7		2.0
							0.4
(4) 菊いも							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	13.3	12.2	12.8	12.2	481.3	488.5	61.6
2004	7.5		7.5		562.7		42.2
							59.6
(5) えごま							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	45.2	12.2	44.0	12.1	49.2	45.8	21.7
2004	141.4		137.3		57.7		79.2
							5.1
(6) ごま							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	126.0	32.3	99.1	8.1	61.6	15.8	61.0
2004	86.9		89.4		60.5		54.0
							1.3
(7) オリーブ							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	50.8	0.1	50.8	0.1	203.0	33.0	103.1
2004	55.8		54.8		202.7		111.1
							0.03
(8) ひまわり							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	94.0	73.7	73.0	57.0	57.5	54.9	42.0
2004	93.6		73.1		46.49		32.9
							31.3
(9) 和理はっか							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	8.4	0.0	8.4	0.0	7.1	0.0	0.6
2004	2.0		2.0		8.7		173.0
							0.0
(10) 洋理はっか							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	3.7	3.4	3.5	3.2	174.3	184.4	6.1
2004	0.5		0.5		250.0		1,250.0
							5.9
(11) ラベンダー							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	12.8	3.4	12.5	3.4	0.0	0.0	87.8
2004	16.1		16.1		1,242.2		200.0
							23.9
(12) しそ							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2004	178.3		177.8		158.7		282.2
							73.0
(13) 藍							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	37.8	19.0	37.8	19.0	382.0	385.0	190.0
2004	35.2		35.2		473.1		166.4
							73.0
(14) 紅花							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	6.3	0.0	3.9	0.0	2.6	0.0	0.1
2004	3.8		3.8		2.3		0.1
							0.0
(15) レッドキャベツ							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	159.2	31.2	157.9	29.9	4,538.6	5,202.0	7,166.4
2004	89.6		83.0		2,988.0		2,480.0
							1,555.4
(16) ステビア							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	2.5	2.5	2.5	2.5	124.8	124.8	3.1
2004	1.9		1.9		147.4		2.8
							3.1
(17) ケナフ							
年次	栽培面積		収穫面積		107-#当たり収量		収穫量
	(ha)	うち水田	(ha)	うち水田	(kg)	うち水田	(t)
2001	8.1	4.3	1.9	1.0	678.9	170.0	12.9
2004	1.8		0.9		873.5		7.3
							1.7

「特産農作物生産実績」各年版より作成

表3 特産農作物の生産概況(立地問題) (その1)

(1) 大麻(あさ)

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種
岩手県	0.0	0.0	3.0	0.0	雫石町	
福島県	0.0	0.0	20.0	0.0	昭和村	
栃木県	8.4	7.5	38.0	2.8	粟野町、鹿沼市、西方町、葛生町	とちぎしろ
群馬県	0.1	0.1	40.0	0.0	吾妻町	
合計	8.6	7.7	37.1	2.8		

(2) ラミー

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
福島県	0.9	0.9	23.0	0.2	昭和村	
合計	0.9	0.9	21.4	0.2		

(3) ほうきもち

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
福島県	3.5	3.5	153.0	5.4	梁川町	
合計	3.5	3.5	154.3	5.4		

(4) 菊いも

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
岩手県	0.2	0.2	3,300.0	6.6	釜石市	
福島県	0.2	0.2	500.0	1.0	天栄村	
石川県	3.0	3.0	500.0	15.0	七尾市	
岐阜県	4.1	4.1	478.0	19.6	恵那市、瑞浪市	
合計	7.5	7.5	562.7	42.2		

(5) えごま

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
青森県	2.0	2.0	64.0	1.3	三戸市、田子町、下田町	不明
岩手県	8.1	8.1	53.0	4.4	衣川村、大東町、遠野市、沢内村	
宮城県	10.7	10.7	25.0	2.7	色麻町	
山形県	6.0	5.9	81.0	4.8	戸沢村、遊佐町、白鷹町	八戸在来(黒)
福島県	56.0	52.0	62.0	32.0	田村市、天栄村、下郷町、大信村、鮫川村	在来種
神奈川県	9.0	9.0	60.0	5.4	横浜市、平塚市、相模原市、厚木市、小田原市	在来
新潟県	0.1	0.1	20.0	0.0	中条町	不明
富山県	2.0	2.0	38.0	0.8	南砺市、大沢野町	在来種
岐阜県	26.4	26.4	40.1	10.6	高山市、国分町、飛騨市、丹生川村、下呂市	在来種他
愛知県	1.5	1.5	38.2	0.6	設楽町	
京都府	3.4	3.3	58.0	1.9	京丹後市、大江町	黒種
島根県	1.0	1.0	50.0	0.5	川本町	白川種
広島県	15.3	15.3	93.0	14.3	東広島市、神石高原町	
合計	141.4	137.3	57.7	79.2		

(6) ごま

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
山形県	1.6	1.6	80.0	1.3	白鷹町	
福島県	0.1	0.1	50.0	0.1	湯町	
岐阜県	1.3	1.3	123.0	1.6	下呂市	
京都府	1.3	1.3	4.0	0.1	京北町	金ごま
兵庫県	2.4	2.4	17.0	0.4	洲本市、(淡)一宮町、五色町	(子実)
岡山県	0.9	0.9	90.0	0.8	勝央町	
山口県	1.0	1.0	100.0	1.0	秋穂町	
愛媛県	0.4	0.4	100.0	0.4	西条市	在来種
福岡県	15.0	12.0	110.0	13.2	宗像市等	
長崎県	27.4	27.4	13.5	3.7	有家町、深江町、北有馬町、南有馬町	不明
熊本県	2.4	1.9	65.4	1.3	湯前町、蕨里町	
鹿児島県	34.1	30.1	70.0	21.2	姶野町、有明町、財部町	白ごま、在来白ごま
沖縄県	9.0	9.0	100.0	9.0	竹富町(小浜)	黒ごま
合計	96.9	89.4	60.5	54.0		

(7) オリーブ

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
静岡県	0.3	0.3	34.0	0.1	松崎町	ミッション、マンザニロ
岡山県	7.5	7.5	67.0	5.0	瀬戸内市	ミッション、マンザニロ、ネバディロブランカ、ルツカー
香川県	48.0	47.0	225.0	106.0	土庄町、内海町、池田町、高松市、国分寺町	ミッション、マンザニロ、ネバディロブランコ
合計	55.8	54.8	202.7	111.1		

「特産農産物生産実績」各年版より作成

表3 特産農作物の生産概況(立地問題) (その2)

(8) ひまわり

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	0.5	0.2	100.0	0.2	北竜町	IS3311 IS954
青森県	0.1	0.1	5.0	0.0	板柳町	不明
岩手県	6.0	6.0	90.0	9.0	北上市	サリッサレンジ
宮城県	12.8	12.8	25.8	3.3	三本木町	IS6767 IS8048
石川県	2.3	2.3	-	-	津幡町(河北潟)	ハイリッドサフラワー
兵庫県	31.0	13.0	38.0	5.0	南光町	ハイリッドサフラワー(子実)
島根県	30.0	30.0	28.0	8.4	斐川町	ハイブリッドサンフラワー
岡山県	3.9	1.7	25.0	0.4	久米南町、佐伯町	油用
香川県	6.0	6.0	100.0	6.0	仲南町	油用 F 1
福岡県	1.0	1.0	60.0	0.6	厚川町等	
合計	93.6	73.1	46.49	32.9		

(9) 和種はっか

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (kg)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	2.0	2.0	8.7	173.0	滝上市	ほくと
合計	2.0	2.0	8.7	173.0		

(10) 洋種はっか

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (kg)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	0.5	0.5	250.0	1,250.0	中富良野町	バジル、チャーム
合計	0.5	0.5	250.0	1,250.0		

(11) ラベンダー

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	16.1	16.1	1,242.2	200.0	中富良野町	カムフラ
合計	16.1	16.1	1,242.2	200.0		

(12) しそ

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	174.8	174.8	150.5	263.1	佐呂間町、生田原町、遠軽町、滝上町、上富良野町、端野町、遠別町	北海1号、本赤ちりめんしそ
山形県	1.0	0.5	100.0	0.5	朝日村	
静岡県	0.5	0.5	2,000.0	10.0	藤枝市	
宮崎県	2.0	2.0	430.0	8.6	高岡町、北方町	
合計	178.3	177.8	158.7	282.2		

(13) 藍

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	8.0	8.0	800.0	64.0	伊達市	在来種
青森県	0.4	0.4	371.0	1.4	青森市、紗ヶ沢町	小上粉(こじょうこ)
徳島県	22.0	22.0	382.0	85.0	上板町、石井町、阿波市	小上粉
沖縄県	4.8	4.8	337.0	16.0	本部町	
合計	35.2	35.2	473.1	166.4		

(14) 紅花

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
山形県	3.8	3.8	2.3	0.1	白鷹町、山形市、河北町、寒河江市、高島町	最上紅花
合計	3.8	3.8	2.3	0.1		

(15) レッドキャベツ

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
北海道	7.8	7.8	4,359.0	340.0	恵庭市	RB-3A(タキイ種苗)
岡山県	25.8	20.4	1,500.0	306.0	落合町、笠岡市	中生ルビーボール
鹿児島県	56.0	54.8	3,347.0	1,834.0	枕崎市、瀬田町、川辺町	ルビーボール
合計	89.6	83.0	2,988.0	2,480.0		

(16) ステビア

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
茨城県	1.8	1.8	150.0	2.7	利根町	
岡山県	0.1	0.1	135.0	0.1	新見市	
合計	1.9	1.9	147.4	2.8		

(17) ケナフ

都府県名	栽培面積 (ha)	収穫面積 (ha)	収量 (kg/10a)	収穫量 (t)	主産地 (市町村名)	主要品種名
宮城県	0.6	-	-	-	角田市	
秋田県	0.1	0.0	165.0	0.1	十文字町	
山形県	1.0	0.8	900.0	7.2	高島町	
岡山県	0.1	0.1	英田町	
合計	1.8	0.9	873.5	7.3		

「特産農産物生産実録」各年版より作成

表4 野菜生産の動向(野菜生産出荷統計 各年版) 指定産地割合追加予定

制度把握	分類		作付面積 ha					収穫量 t					作付増減率			
	制度別	統計開始	類型別	旧類型	品目	40年	60年	平成2年	平成17年	40年	60年	平成2年	平成17年	65/85	90/85	05/90
						65	85	2000	2005	65	85	2000	2005			
指定	特定	s元年	新根菜類	根菜	だいこん	98600	66900	45700	39100	3092000	2544000	1876000	1627000	▲ 32.2	▲ 31.7	▲ 14.4
					かぶ	9420	7700	6470	5470	195700	208600	187200	153200	▲ 18.3	▲ 16.0	▲ 15.5
					根菜	23900	25000	22300	19000	400000	662600	681700	614900	▲ 4.6	▲ 10.8	▲ 14.8
					ごぼう	19100	14400	10700	8780	306400	263400	189900	161700	▲ 24.6	▲ 25.7	▲ 17.9
					根菜	5090	6090	4660	4170	86800	89400	75500	64200	▲ 19.6	▲ 23.5	▲ 10.5
					別集計	212500	130100	94600	86900	4056000	3727000	2898000	2752000	▲ 38.8	▲ 27.3	▲ 8.1
					根菜	38900	28500	18800	15000	476900	375100	230500	184500	▲ 26.7	▲ 34.0	▲ 20.2
					根菜	4560	8390	8880	8750	68700	167600	201200	204100	▲ 84.0	▲ 5.8	▲ 1.5
					新	49600	33900	22700	19800	1542000	1478000	1036000	924300	▲ 31.7	▲ 33.0	▲ 12.8
					新	5590							87900	-	-	-
指定	特定	s元年	新葉茎菜類	葉茎菜	キャベツ	43300	42400	36900	33500	1175000	1589000	1449000	1364000	▲ 2.1	▲ 13.0	▲ 9.2
					ちんげんさい				2370				50100	-	-	-
					ほうれんそう	24000	26400	25200	23700	333600	382500	316400	298200	▲ 10.0	▲ 4.5	▲ 6.0
					ふき				802				17000	-	-	-
					みつば				1290				18600	-	-	-
					しゅんぎく				2530				40900	-	-	-
					洋菜	308	20800	723	678	9108	459000	39900	34900	6653.2	▲ 96.5	▲ 6.2
					新				6370				28300	-	-	-
					洋菜	1130	8940	1740	1430	19800	128900	31800	25400	691.2	▲ 80.5	▲ 17.8
					洋菜			8150	10700				82900	-	-	31.3
指定	特定	平成元年	新葉茎菜類	葉茎菜	プロッコリー	2740	30700	21700	21500	49600	633800	537200	551700	1020.4	▲ 29.3	▲ 0.9
					ねぎ	29500	24000	25100	23100	570200	552600	536700	493500	▲ 18.6	▲ 4.6	▲ 8.0
					新				2170				61100	-	-	-
					新	33600	30800	26900	23000	859100	1326000	1247000	1087000	▲ 8.3	▲ 12.7	▲ 14.5
					新				1940				18300	-	-	-
					新	34500	23400	15200	13400	778500	1033000	766500	674600	▲ 32.2	▲ 35.0	▲ 11.8
					果菜	22700	17500	17700	16900	351000	273400	253600	234100	▲ 22.9	▲ 1.1	▲ 4.5
					果菜	30000	19400	13300	11400	623300	598500	476900	395700	▲ 35.3	▲ 31.4	▲ 14.3
					果菜	18800	15300	13600	13000	536100	802400	806300	759200	▲ 18.6	▲ 11.1	▲ 4.4
					果菜	2770	4720	4110	3620	52700	171600	171400	153800	▲ 70.4	▲ 12.9	▲ 11.9
指定	特定	s16	新果菜類	豆類	スーホーン	25900	36400	29200	25900	261400	359600	289200	251000	40.5	▲ 19.8	▲ 11.3
					さやいんげん	11500	11900	8690	7440	75600	93900	63900	52600	▲ 3.5	▲ 27.0	▲ 14.4
					さやえんどう	18900	9770	5500	4660	101300	66500	37300	29200	▲ 48.3	▲ 43.7	▲ 15.3
					新				2710				23000	-	-	-
					新	6550	14300	12700	13000	62600	115500	80800	77100	118.3	▲ 11.2	▲ 2.4
					新				1840				39400	-	-	-
					新	9600	11000	7450	6880	75500	195700	205300	196200	▲ 14.6	▲ 32.3	▲ 7.7
					果実	8290	16470	13800	10400	109590	366200	317500	241800	98.7	▲ 16.2	▲ 24.6
					果実	37700	26400	16900	13400	755600	820400	580600	450200	▲ 30.0	▲ 36.0	▲ 20.7
					制度分類	集計	(旧分類)	根菜類計		199570	156980	117510	100270	4626500	4310700	3442000
葉茎菜類計	180000	157500	136800	139792					4479900	5328100	4585100	4460900	▲ 12.5	▲ 13.1	▲ 2.2	
果菜類計	108770	80320	63910	58320					2341600	2878900	2474700	2217400	▲ 26.2	▲ 20.4	▲ 8.7	
豆類計	62850	72370	56090	53710					500900	635500	471200	432900	▲ 15.1	▲ 22.5	▲ 4.2	
果実野菜計	55590	53870	38150	30680					940690	1382300	1103400	888200	▲ 3.1	▲ 29.2	▲ 19.6	
洋菜類計	4178	60440	32313	40678					78508	1221700	691800	745500	1346.6	▲ 46.5	25.9	
パレイシヨ	212500	130100	94600	86900					4056000	3727000	2898000	2752000	▲ 38.8	▲ 27.3	▲ 8.1	
香辛野菜				1840								39400	-	-	-	
指定野菜計	642710	501520	386110	346020					14545000	15876100	13029600	11880400	▲ 22.0	▲ 23.0	▲ 10.4	
特定野菜計	180748	210060	153263	166170					2479098	3608100	2636600	2665500	▲ 16.2	▲ 27.0	▲ 8.4	
野菜計	823458	711580	539373	512190	17024098	19484200	15666200	14545900	▲ 13.6	▲ 24.2	▲ 5.0					

注 1. 野菜生産出荷統計各年版より作成
 2. 平成14年産から葉茎作物を中心に10品目追加(新)して39品目、野菜の類型区分も変化している。
 3. 洋菜類の廃止による葉茎菜類、果菜類への編入、ジャガイモの根菜類編入、香辛野菜の追加がある。
 4. ここでは新分類に基づき並び、旧分類に基づき集計。平成17年のみ、追加10品目が集計されている。

表5 地域特産野菜の生産の概要・推移

制度対応	整理番号	品目名	(1) 作付面積 ha							(2) 収穫量 t						
			昭41	45	55	平成2	12	16	昭41	45	55	平成2	12	16		
			66	70	80	90	2000	2004	66	70	80	90	2000	2004		
	1	あさつき	249	97	80	58	3350	1410	1267	819		
特定		アスパラガス	6060	...	6380	10491	5759	6480	14400	...	26600	30567	21708	29100		
	2	うど(露地盛土)	264	162	488	478	274	143	3260	1640	3470	3408	1611	466		
		うど(伏込み)(千㎡)	384	202	387	1024	1135	3471	5430	6020	5040	6693	5685	3620		
	3	うるい	30	63	176	210		
	4	エシャレット	104	185	180	164	1260	2281	2415	2060		
	5	オクラ	657	581	579	714	11000	10592	10858	12496		
	6	かいわれだいこん	18270	4456	6534		
	7	かんぴょう	...	3350	3310	1800	288	226	...	5690	4190	2410	447	352		
	8	クレソン	61	57	52	1210	787	1333		
	9	くわい	232	255	98	72	2960	1639	907	537		
特定		こまつな	2080	2356	3495	5510	33100	39291	56833	86600		
	10	しそ	1030	931	829	770	11600	16732	12735	11441		
特定		しゅんぎく	1200	1290	2980	2318	1858	2580	18200	24200	46400	37570	31840	41200		
	11	じゅんさい	289	275	164	1071	808	609		
	12	食用ぎく	591	340	398	196	4750	2978	3374	1587		
	13	食用花	4	4	12	147	48	58		
	14	食用ゆり	245	425	197	145	2380	3754	4740	2305		
	15	しろうり	1580	704	192	142	38800	21348	10604	5692		
	16	ズッキーニ	45	83	111	900	1384	2325		
特定?	17	スナップエンドウ	89	156	830	1897		
	18	せり	222	243	197	87	3900	3585	3786	1555		
	19	ぜんまい(栽培)	292	341	355	277	151	137		
	20	タアサイ	122	38	40	1909	718	906		
	21	たけのこ	55300	57001	55164	35761	178800	129207	35217	27928		
		竹林総面積	14000	15175	7184	7581		
		竹園地面積	25	36	24	110	77	201		
	22	たて	395	406	512	468	446	395		
特定	23	たらの芽(栽培)	1354	1634	2320	26929	36730	47100		
		チンゲンサイ	6202	3762	3108	185800	142175	91854	74090		
	24	つけな(みずなを除く)	9290	63	106	120	1282	1942	2674		
	25	つるむらさき	50	28	32	227	216	184		
	26	とうがらし(辛味)	215	282	266	232	...	4350	10785	11683	11703			
	27	とうがん	79	46	272	162		
	28	トングリ(栽培)	822	6855		
	29	なばな	815	809	7412	5763		
		#(主に花を食するもの)	460	420	5101	4463		
		#(主に葉を食するもの)	272	223	568	1028	...	4610	4782	12425	25218		
特定	30	にがうり	2380	2068	2055	2180	55200	55798	61680	61600		
特定		にんにく	1740	1910	3340	3090	1984	1920	16500	16600	28300	35381	18288	19300		
特定		根しょうが	3230	5770	4190	2370	1349	1900	53900	74800	79200	48156	32902	38400		
	31	パクチョイ	50	5	15	784	57	298		
特定?	32	薬しょうが	1510	1120	617	330	180	139	23600	15800	10800	7219	4325	3434		
	33	パセリ	615	627	536	470	9730	10781	9179	6578		
	34	煙わさび	372	416	240	2130	2574	1606		
	35	ハナニラ	42	18	26	298	65	334		
	36	花みょうが	1630	1846	998	986	7300	8446	6101	5300		
	37	パプリカ	21	44	809	2195		
	38	非結球レタス	2013	2646	2880	37679	50926	51728		
特定		ふき	798	794	1180	955	697	867	21600	23000	37200	28262	17276	18300		
	39	マッシュルーム(千㎡)	321	431	255	179	157	169	3450	5590	4050	3401	2578	3162		
	40	寒えんどう	459	285	2440	2308	1259	865	3130	1830	17200	16798	11272	8462		
	41	みずな	1320	22069		
	42	水わさび	570	447	552	401	317	253	3370	2390	2840	2363	2461	2181		
特定		未成熟そらめ	3130	2437	1497	2770	22600	23011	16349	23300		
特定		みつば	1370	1305	1022	1330	16200	17096	16546	18800		
	43	ミニかぼちゃ	51	65	419	676		
	44	みょうがたけ	107	58	22	17	902	579	198	157		
	45	芽キャベツ	201	64	25	29	2290	1092	340	251		
	46	モロヘイヤ	176	157	3918	2132		
	47	山ごぼう(栽培)	52	32	502	312		
	48	らっきょう	2950	2350	2300	1622	1002	1035	34900	31200	32200	23007	15071	15961		
	49	ラディッシュ	49	123	107	760	931	778		
	50	ルッコラ	11	45	154	306		
	51	わけぎ	855	662	903	546	304	223	12600	10800	15400	11166	5350	4034		
	52	わさびだいこん	279	124	159	3325	1243	2468		
	53	わらび(栽培)	342	159	238	816	402	269		

「地域特産野菜の生産状況」より作成
 制度対応「特定」は地域特産から特定野菜へ格上げになったもの
 制度対応「価格」は、野菜安定制度における地域価格安定対象品目のもの